

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（福岡教育大学・教育学部）

授業科目名	学校臨床心理学
教員名（専門分野）	安部 順子（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論および方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 60名
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>授業計画</p> <p>第1回：学校臨床心理学とは</p> <p>第2回：臨床心理学の展開（歴史とテーマ）</p> <p>第3回：カウンセリング・マインドと学校臨床心理学</p> <p>第4回：カウンセリング・マインドを生かした指導</p> <p>第5回：予防的アプローチ</p> <p>第6回：不登校の理解と対応</p> <p><u>第7回：いじめの理解と対応</u></p> <p>第8回：発達障害の理解と対応</p> <p>第9回：学校に活かす臨床心理学の技法1</p> <p>第10回：学校に活かす臨床心理学の技法2</p> <p>第11回：学校に活かす臨床心理学の技法3</p> <p>第12回：子どもの心理・社会的発達</p> <p>第13回：社会資源と連携</p> <p>第14回：教師のメンタルヘルス</p> <p>第15回：まとめ</p>

【授業内容】

第7回 いじめの理解と対応

この授業では、「居場所」との関連でいじめ問題を考える。そのために、以下の手順で授業を進める。

- 学級の人間関係や雰囲気把握する方法として $Q=U$ テストについて、実際に質問項目に回答し、分析の仕方について学ぶ。
- 学級が居心地のよい場となるための取り組みについて考え、グループで討論し、全体でシェアリングをおこなう。

【授業内容】

(第13回いじめの理解と対応)

いじめ問題について、いじめの実態と対応についての基本的な理解を得ることを狙いとする。そのために次のような内容で講義する。

- ・いじめの実態に関して：生徒指導上の諸問題」の最新の調査結果を踏まえ、いじめの定義についてその変遷の背景について説明を行う。
- ・いじめへの対応：特に早期発見の重要性、日頃の生徒-教師間の信頼関係の構築のためのとりくみ、児童生徒理解のための視点等について説明を行う。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（福岡教育大学・教育学部）

授業科目名	学校における心理援助
教員名（専門分野）	中島 義実（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導
単位数・受講者数	2単位 ・ 約70名
対象課程・対象学年	学部 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校における心理援助とは 2 パーソナリティとその理解 3 様々な心理検査法 4 心理療法とカウンセリング 5 精神分析からみたパーソナリティと心理援助 6 行動療法からみたパーソナリティと心理援助 7 人間性心理学からみたパーソナリティと心理援助 8 問題行動の理解 9 児童期の心理的問題 10 青年期の心理的問題 11 不登校の理解 12 不登校への対応 <u>13 いじめの理解と対応</u> 14 学級における不適応 <u>15 その他の心理的問題</u>

【授業内容】

授業全体の目的は、学校において児童・生徒の抱える心理的問題について理解を深めることにある。具体的には「教師として児童・生徒に関わるときに大切な人格・臨床心理学的視点を養う」「さまざまな問題行動への理解と援助の手がかりをつかむ」ことを目的とする。

該当箇所においては、まず、「いじめ」の定義の変遷を整理し、「喧嘩」「トラブル」とどこが違うか、見分け方を教授する。

次いで、いじめを行う側がどのような心理状態からそれを行ってしまうのか、いじめられた側が被害を訴えられないのはなぜか、その心理メカニズムを明らかにして教授する。

その後、初期段階のいじめに対する具体的な対応方法、および、固定化・長期化したいじめに対する具体的な対応方法を教授する。

さらに、補足資料として、精神科医中井久夫氏の著作「いじめの政治学」からの資料を配布することでより細やかな理解と対応への視点をもたせる。

同時に、太田光氏の小説「魔女」からの資料を配布し、私たちがいかにしていじめに加担しやすい存在であるかの自覚を促す。この自覚こそが、いじめを見逃さない視点につながるからである。

また、その他の心理的問題として、被虐待児の心理についても詳説することになっている。なぜならば、被虐待児に生じる心理的現象は、いじめられている子どもに生じる心理的現象ととても類似しているからである。この類似性を明確に指摘しながら講じている。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（福岡教育大学・教育学部）

授業科目名	学校臨床心理学演習
教員名（専門分野）	中島 義実（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	基礎理論
単位数・受講者数	1 単位 ・ 約 25 名
対象課程・対象学年	学部 2 年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 学校教育と臨床心理学 3 臨床心理学の人間理解 4 臨床心理学の子ども理解 5 心理療法の発想から学ぶ <u>6 学級づくりと臨床心理学</u> <u>7 学級の中での不適応支援</u> 8 不登校への援助（小学生） 9 不登校への援助（中学生） 10 スクールカウンセラーの実践（子どもへの援助） 11 スクールカウンセラーの実践（保護者への援助） 12 教師とスクールカウンセラーの連携 13 軽度発達障害の子どもへの援助 14 暴力、問題行動等への援助 15 まとめ

【授業内容】

授業全体の目的は、学校教育に臨床心理学をどのように生かしていくことができるか、その実践の具体像を、事例を通して学ぶことにある。

臨床心理学ではどのような発想で人間（子ども）を理解していこうとしているのか、基本的な発想にふれつつ、臨床心理学を生かした教育実践や、学校における心理臨床を中心に事例にふれていき、現場に応じた実践の様々なあり方の具体像を知ることを目指す。

可能な範囲でゲストスピーカーを招き、現場の生の実践の紹介も行う。

臨床心理学の実践事例（公表されたもの）に関する文献の講読による演習形式で行い、履修者は、必ず1回は発表を担当し、担当した文献の内容の紹介と自分なりのコメントを発表する。発表担当者以外の履修者には、授業までに文献を最低1回は読み、合わせて課される予習課題を行ったうえで、発表された内容に関する討論に参加する。

該当箇所においては、いじめに関する事例や、いじめにつながりかねない事態に対応した事例の文献の講読演習を行い、いじめに関する理解や、対応の際の着眼点、留意事項などを、具体事例にかんして討論しつつ深く学んでいくこととなる。

さらに、補足資料として、精神科医中井久夫氏の著作「いじめの政治学」からの資料を配布することでより細やかな理解と対応への視点をもたせる。

同時に、太田光氏の小説「魔女」からの資料を配布し、私たちがいかんしていじめに加担しやすい存在であるかの自覚を促す。この自覚こそが、いじめを見逃さない視点につながるからである。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（福岡教育大学・教育学部）

授業科目名	心理アセスメントと教育
教員名（専門分野）	中島 義実（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	選択
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導
単位数・受講者数	2単位 ・ 約25名
対象課程・対象学年	学部 3, 4年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 必要な基礎知識の復習 3. <u>心理アセスメントと学校教育</u> 4. 心理アセスメントと心理検査 5. 心理検査の発想と分類 6. 発達検査 7. 知能検査1 8. 知能検査2 9. 知能検査3 10. パーソナリティ検査1 11. パーソナリティ検査2 12. パーソナリティ検査3 13. 実習1 14. 実習2 15. <u>実習3</u>

【授業内容】

授業全体の目的は、心理アセスメントの諸技法について、具体的な心理検査の実際を学ぶことによって、基礎的知識を身につけ、学校教育に応用する視点と発想とを身につけることにある。

視聴覚教材やゲストスピーカーによる事例紹介などを通して具体的に把握させ、様々な実習も行う。

該当箇所においては、学級の人間関係の状態を把握する心理検査について紹介し、学生に調べ学習とデモンストレーションを行わせる実習を行っている。

この心理検査は、いじめが発生しやすい学級状態を見抜くのに適しており、NHKのニュースで「いじめ対策」の一環として取り上げられたものである。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（福岡教育大学・教育学部）

授業科目名	心理教育支援実習 B
教員名（専門分野）	中島 義実（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	選択
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	基礎理論
単位数・受講者数	2単位 6名
対象課程・対象学年	学部 3, 4年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	1 オリエンテーション 2 心理教育支援実習1で得られた成果 3 心理教育支援実習1で得られた課題 4 心理教育支援の発展的理論 5 心理教育支援の発展的方法 6 心理教育支援の実際：計画の工夫 7 心理教育支援の実際：導入の工夫 8 心理教育支援の実際：展開の工夫 9 心理教育支援の実際：評価の工夫 10 心理教育支援の実際：連携の展開 11 心理教育支援と授業との連携の推進 <u>12 心理教育支援と学級活動との連携の推進</u> <u>13 心理教育支援と適応援助との連携の推進</u> 14 心理教育支援と地域との連携の推進 15 まとめ

【授業内容】

授業全体の目的は、前期の心理教育支援実習 A における成果と課題を踏まえ、心理学の基礎知識を実際の教育場面の中でどのように応用していくのかについて、特に個別教育支援における心理教育支援を中心に、さらに深めて検討し、実践的指導力をより高めていくことを目的としている。

この授業の履修においては、地域の効率の協力校における学校支援ボランティア活動が義務付けられており、該当箇所においては、実際に学級の中で観察したり活動したりする中で、学級における子どもたち同士の間関係について問題意識をもった部分について、カンファレンス形式で討論を行う。

このことによって、学級全体の対人関係を的確に把握する視点の基礎を、体験的に身につけることとなる。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（福岡教育大学・教育学部）

授業科目名	生徒指導
教員名（専門分野）	黒川 雅幸（教育社会心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修 ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目 生徒指導の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 70名
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒指導とは 生徒指導の概念／生徒指導の意義と課題 2 生徒指導の進め方 生徒指導と教育課程／生徒指導の組織と計画 3 児童・生徒の理解(1) 発達の理解／児童・生徒理解の具体的方法 4 児童・生徒の理解(2) 発達の理解／児童・生徒理解の具体的方法 5 生徒指導の方法 基本的生活習慣／集団指導と個別指導 6 生徒指導と教育相談(1) 教育相談の理論／教育相談の方法 7 生徒指導と教育相談(2) 教育相談の理論／教育相談の方法 8 <u>問題行動の指導(1)</u> <u>問題行動の現状：不登校，いじめ，校内暴力， 喫煙・薬物乱用，性非行</u> <u>指導の方法／保護者・地域社会・関係機関との連携</u> 9 <u>問題行動の指導(2)</u> <u>問題行動の現状：不登校，いじめ，校内暴力， 喫煙・薬物乱用，性非行</u> <u>指導の方法／保護者・地域社会・関係機関との連携</u> 10 <u>問題行動の指導(3)</u> <u>問題行動の現状：不登校，いじめ，校内暴力， 喫煙・薬物乱用，性非行</u> <u>指導の方法／保護者・地域社会・関係機関との連携</u> 11 問題行動の予防(1) 積極的生徒指導の意義／予防のための指導方法 12 問題行動の予防(2) 積極的生徒指導の意義／予防のための指導方法 13 進路指導(1) 進路指導の意義と方法／進路相談と生き方の教育 14 進路指導(2) 進路指導の意義と方法／進路相談と生き方の教育 15 まとめ

【授業内容】

8～10 問題行動の指導(1)～(3)

いじめの定義, 件数, 役割, 動機, 発見のきっかけ, 様態,
いじめる子への対応, いじめられた子への対応

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（福岡教育大学・教育学部）

授業科目名	言語障害児教育総論
教員名（専門分野）	見上 昌睦（言語障害児教育学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	選択必修
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	特別支援教育に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 53名
対象課程・対象学年	学部 3年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語（コミュニケーション）とその障害 2. 言語障害の種類、特徴、発生機序 3. 発声・発語の機構 4. <u>ライフステージを通しての言語障害児者の心理</u> 5. 言語障害児教育の教育課程 6. 通級による指導の概論 7. 通級による指導の実際 8. 言語障害児教育の歴史 9. 言語障害児を持つ親心理 10. 言語障害児を持つ親の会 11. 言語障害児教育における個別の教育支援計画 12. 通級指導教室における学習指導案 13. <u>言語障害児の指導の実際</u> 14. 言語障害児教育の今後の課題 15. まとめ

【授業内容】

言語障害と通級による指導について学習する。通級による指導は、通常の学級に在籍する軽度の障害のある児童生徒に対する専門的な教育の形態であり、言語障害〔構音障害（発音の誤り、不明瞭さ）、吃音（発話の流暢性の障害）、言語発達遅延など〕は、通級による指導の対象児童生徒の48%を占めている。

本授業では、言語・コミュニケーションとその障害の概要、言語障害児教育（通級による指導）の制度・歴史、個別の教育支援計画や指導法などについて、ビデオ視聴も交えながら紹介している。

授業の特色として、小学校きこえとことばの教室の見学会や言語障害のある子どもの母親でもある親の会の役員の講話も設けている。また、通常の学級の担任教師にできる指導・支援の方法についても紹介している。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（福岡教育大学・教育学部）

授業科目名	教職総合実践演習
教員名（専門分野）	高松 勝也 （教育相談）
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 32名 （15回中の6回を担当）
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 4年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第1回：教員の職務内容、社会人としての基本など（1）</p> <p>第2回：教員の職務内容、社会人としての基本など（2）</p> <p>第3回：生徒指導事例の検討（1）</p> <p><u>第4回：生徒指導事例の検討（2）</u></p> <p>第5回：学級経営、保護者等との連携・協力など（1）</p> <p>第6回：学級経営、保護者等との連携・協力など（2）</p>

【授業内容】

(第4回：生徒指導事例の検討(2))

事例を提示し、事例から担当教員の立場、いじめられた児童生徒の立場、いじめた児童生徒の立場でどのような事が考えられるか自分なりの意見を持ち、4人程度のグループでディスカッションを行った。

ディスカッションそのものが、学生同士の学び合いの時間となり充実したものとなった。

ディスカッションで発生した疑問を質疑応答の形で共有するとともに、講師がディスカッションの中で気になったことを取り上げ追加説明を行った。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（福岡教育大学・教育学部）

授業科目名	こころと体の健康科学 A
教員名（専門分野）	宮田 正和（健康科学、心身医学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教養科目
単位数・受講者数	2 単位 ・ 250 名
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 全学年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>第 1 回：アルコールの害。タバコの害</p> <p>第 2 回：自分について知るために①</p> <p>第 3 回：メンタルヘルスとこころの病気</p> <p>第 4 回：生活習慣病①</p> <p><u>第 5 回：教育現場のメンタルヘルス</u></p> <p>第 6 回：レポート・論文の書き方、プレゼンの仕方</p> <p>第 7 回："消費者啓発講座「若者を狙う 消費者トラブル」</p> <p>第 8 回：インターネットや携帯電話を安全に使うために"</p> <p>第 9 回：こころと身体を考える講演会</p> <p>第 12 回：医療問題について①</p> <p>第 13 回：ハラスメント防止講演会</p> <p>第 14 回：自分でできる健康チェック</p> <p>第 15 回：スキンケアとサプリメント</p>

【授業内容】

第 5 回：教育現場のメンタルヘルス

教育現場における、不登校、いじめ、発達障害、モンスターペアレント、教師のストレスについて

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（佐賀大学・文化教育学部）

授業科目名	現代教育論
教員名（専門分野）	松下 一世（教育学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教育の基礎理論に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 150名
対象課程・対象学年	<input checked="" type="checkbox"/> 学部・修士・教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<ul style="list-style-type: none"> ①現代の教育問題とは ②少年非行 ③いじめ問題とは ④いじめの実態と対応 ⑤ネットいじめの実態 ⑥ コミュニケーション力 ⑦ メディアリテラシー ⑧ 不登校問題とは ⑨不登校の実態と対応 ⑩モンスターペアレントとは ⑪保護者とのトラブルの実態とその対応 ⑫学力問題 ⑬国際標準の学力とは ⑭地域と学校 ⑮学校の役割と課題

【授業内容】

③いじめ問題とは

- いじめ問題が社会問題として認識されるようになる歴史的経緯
- いじめ事件と自殺報道との関係
- いじめの3つの波
- いじめの定義

④いじめの実態と対応

- いじめの実態をデータから読み取る
 - 文科省調査から
 - いじめの研究データから
 - 学校現場での事例から
- いじめの種類と特徴
- いじめの不可視化されるプロセス
- 集団の四層構造
- 対応の在り方を考える

⑤ネットいじめの実態

- ケータイ問題とは
- ネットいじめの実態をデータから読み取る
 - 文科省調査から
 - いじめの研究データから
 - 学校現場での事例から
- 学校でのいじめとネットでのいじめとの連続性
- 対応の在り方を考える

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（佐賀大学・文化教育学部）

授業科目名	特別活動の理論と方法
教員名（専門分野）	松下 一世（教育学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教育課程及び指導法に関する科目
単位数・受講者数	2 単位 ・ 100 名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2 年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ul style="list-style-type: none"> ①特別活動の歴史的経緯と特別活動の目標 ②学習指導要領の改訂のポイント ③特別活動の 4 つの活動とその内容 ④学校行事について ⑤児童会活動について ⑥クラブ活動について ⑦学級活動について ⑧特別活動と学級経営の関係 ⑨子どもたちの人間関係づくりの方法 ⑩人間関係における問題解決の方法 <u>⑪いじめ問題への対応策</u> <u>⑫学級会の持ち方</u> ⑬人間関係づくりのトレーニング ⑭子どもたちの学級満足度検査 ⑮特別活動の果たす役割

【授業内容】

①いじめ問題への対応策

いじめの発見の仕方
事実確認と情報の整理
集団の力関係の構造分析
傍観者と被害者をつなぐ方策
被害者へのメッセージ
加害者へのケア

②学級会の持ち方

集団で何を共有するか
集団の力関係をどのように変えていくのか
キーパーソンとなる層
学級会までの準備
アイメッセージでの語り合い
学級としてのルール作り

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	教育相談（開講所属：水産学部）
教員名（専門分野）	内野 成美（臨床心理学、教育心理学、特別支援教育）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 29名
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第1回 教育相談の意義について学ぶ</p> <p>第2回 教育相談と生徒指導の領域について学ぶ</p> <p>第3回 児童生徒理解の領域について学ぶ</p> <p>第4回 児童生徒理解の方法について学ぶ</p> <p>第5回 カウンセリングの基本技法について学ぶ</p> <p>第6回 カウンセリングの基本技法を体験する</p> <p>第7回 不登校児童生徒への理解について学ぶ</p> <p>第8回 不登校児童生徒への対応について学ぶ</p> <p>第9回 発達障害の児童生徒への理解について学ぶ</p> <p>第10回 発達障害の児童生徒への対応について学ぶ</p> <p><u>第11回 いじめ問題について学ぶ</u></p> <p>第12回 学級崩壊の問題について学ぶ</p> <p>第13回 危機介入について学ぶ</p> <p>第14回 学級集団への援助の方法について学ぶ</p> <p>第15回 学級集団への援助の方法を体験する</p> <p>第16回 授業の総括（まとめ、試験を含む）</p>

【授業内容】

第11回 いじめ問題について学ぶ

- いじめとは何か、何を持っていじめとするかをグループの中でまず考える活動を行う。
- 文科省によるいじめの定義の確認
- 「いじめ」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・諸外国との比較
 - ・現在の日本のいじめ問題
- いじめ⇒不登校、いじめ⇒自殺 など 新聞記事等を使いながら
グループで、いじめとは何か、未然防止・早期解決のための手立てについて検討を行う。
- シェアリング
- まとめ

いじめは被害者の立場に立って対応を行うべきものとされているが、実際にその状況になると、何がいじめなのか、被害と加害の状況等も見えづらいとされる。

その見えづらさを実際に追体験しながら、教師としてどのような支援を考えていくのかを考えることができるよう授業を構成している。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	教育相談（開講所属：工学部）
教員名（専門分野）	内野 成美（臨床心理学、教育心理学、特別支援教育）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・選択必修・ その他 （自由）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 36名
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>教育相談の意義や過程、児童生徒理解の領域と方法、教育相談をする教師の留意点、などの知識や理解を深め、教育相談の技法を学ぶ。</p> <p>第1回 教育相談の意義について学ぶ</p> <p>第2回 教育相談と生徒指導の領域について学ぶ</p> <p>第3回 児童生徒理解の領域について学ぶ</p> <p>第4回 児童生徒理解の方法について学ぶ</p> <p>第5回 カウンセリングの基本技法について学ぶ</p> <p>第6回 カウンセリングの基本技法を体験する</p> <p>第7回 不登校児童生徒への理解について学ぶ</p> <p>第8回 不登校児童生徒への対応について学ぶ</p> <p>第9回 発達障害の児童生徒への理解について学ぶ</p> <p>第10回 発達障害の児童生徒への対応について学ぶ</p> <p><u>第11回 いじめ問題について学ぶ</u></p> <p>第12回 学級崩壊の問題について学ぶ</p> <p>第13回 危機介入について学ぶ</p> <p>第14回 学級集団への援助の方法について学ぶ</p> <p>第15回 学級集団への援助の方法を体験する</p> <p>第16回 授業の総括（まとめ、試験を含む）</p>

【授業内容】

第11回 いじめ問題について学ぶ

- いじめとは何か、何を持っていじめとするかをグループの中でまず考える活動を行う。
- 文科省によるいじめの定義の確認
- 「いじめ」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・諸外国との比較
 - ・現在の日本のいじめ問題
- いじめ⇒不登校、いじめ⇒自殺 など 新聞記事等を使いながら
グループで、いじめとは何か、未然防止・早期解決のための手立てについて検討を行う。
- シェアリング
- まとめ

いじめは被害者の立場に立って対応を行うべきものとされているが、実際にその状況になると、何がいじめなのか、被害と加害の状況等も見えづらいとされる。

その見えづらさを実際に追体験しながら、教師としてどのような支援を考えていくのかを考えることができるよう授業を構成している。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	ゼミナール I [子ども理解]
教員名（専門分野）	内野 成美 （臨床心理学、教育心理学、特別支援教育）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2 単位 ・ 6 名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3 年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス① 2 ガイダンス② 3 カウンセリングの技法① 4 カウンセリングの技法② 5 個別の援助法の実際① 6 個別の援助法の実際② 7 小集団への援助法の実際 8 学級への援助法の実際 9 不登校の理解と対応 <u>10 いじめの理解と対応</u> 11 発達障害の理解と対応① 12 発達障害の理解と対応② 13 非行・問題行動等への理解と対応 14 諸機関と学校との連携の理解と対応 15 総括 16 まとめのレポートの修正および提出

【授業内容】

10 いじめの理解と対応

○事前に課題としていた、最近のいじめに関する記事や学習支援等に関わった学校の事例等の情報を発表する。

○文科省によるいじめの定義の確認

○「いじめ」を知る

- ・歴史的流れ
- ・諸外国との比較
- ・現在の日本のいじめ問題

○いじめ⇒不登校、いじめ⇒自殺 など 新聞記事等を使いながら

いじめとは何か、未然防止・早期解決のための手立てについて検討を行う。

○シェアリング

○まとめ

いじめは被害者の立場に立って対応を行うべきものとされているが、実際にその状況になると、何がいじめなのか、被害と加害の状況等も見えづらいとされる。

その見えづらさを実際に追体験しながら、教師としてどのような支援を考えていくのかを考えることができるよう授業を構成している。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	ゼミナル I [教科授業]
教員名（専門分野）	内野 成美 （臨床心理学、教育心理学、特別支援教育）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2 単位 ・ 1 名
対象課程・対象学年	<input checked="" type="checkbox"/> 学部・修士・教職大学院 3 年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス① 2 ガイダンス② 3 カウンセリングの技法① 4 カウンセリングの技法② 5 個別の援助法の実際① 6 個別の援助法の実際② 7 小集団への援助法の実際 8 学級への援助法の実際 9 不登校の理解と対応 <u>10 いじめの理解と対応</u> 11 発達障害の理解と対応① 12 発達障害の理解と対応② 13 非行・問題行動等への理解と対応 14 諸機関と学校との連携の理解と対応 15 総括 16 まとめのレポートの修正および提出

【授業内容】

10 いじめの理解と対応

○事前に課題としていた、最近のいじめに関する記事や学習支援等に関わった学校の事例等の情報を発表する。

○文科省によるいじめの定義の確認

○「いじめ」を知る

- ・歴史的流れ
- ・諸外国との比較
- ・現在の日本のいじめ問題

○いじめ⇒不登校, いじめ⇒自殺 など 新聞記事等を使いながら

いじめとは何か、未然防止・早期解決のための手立てについて検討を行う。

○シェアリング

○まとめ

いじめは被害者の立場に立って対応を行うべきものとされているが、実際にその状況になると、何がいじめなのか、被害と加害の状況等も見えづらいとされる。

その見えづらさを実際に追体験しながら、教師としてどのような支援を考えていくのかを考えることができるよう授業を構成している。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	教職実践演習[小学校1班]
教員名（専門分野）	原田 純治（社会心理学(社会心理学)）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職実践演習
単位数・受講者数	2単位 ・ 21名
対象課程・対象学年	<input checked="" type="checkbox"/> 学部・修士・教職大学院 4年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（授業の進め方, 目的の確認, 評価に関する説明）（クラス担当教員） 2 教職の意義, 使命感（テーマ①の担当教員） 3 子どもとの触れ合い（テーマ①の担当教員） 4 教育活動での安全管理（テーマ①の担当教員） 5 社会人としての基礎・基本（テーマ②の担当教員他） 6 職位と職務の理解と職域社会におけるコミュニケーション（テーマ②の担当教員） 7 様々な対人対応（特に保護者や地域との対応）（テーマ②の担当教員） <u>8 いじめ・不登校など子どもの理解（テーマ③の担当教員）</u> 9 学級経営の考え方と案作り（テーマ③の担当教員） 10 学級集団作りの手法（テーマ③の担当教員） 11 教材研究の視点と実務（テーマ④の担当教員） 12 学習指導案の作成（テーマ④の担当教員） 13 子どもの反応に応じた適切な学習指導（テーマ④の担当教員） 14 課題研究発表会及び資質再チェック1（クラス担当教員） 15 課題研究発表会及び資質再チェック2（クラス担当教員）

【授業内容】

8 いじめ・不登校など子どもの理解（テーマ③の担当教員）

- 文科省による「いじめ」及び「不登校」の定義の確認
- 「いじめ」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・諸外国との比較
 - ・現在の日本のいじめ問題
- 「不登校」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・不登校のタイプ別対応法
 - ・応答訓練
- いじめ⇒不登校，いじめ⇒自殺 など 新聞記事等を使いながら
グループで、いじめとは何か、未然防止・早期解決のための手立てについて検討を行う。
- シェアリング
- まとめ

いじめ及び不登校は、学校が抱える大きな課題である。その課題に焦点を当て、そのメカニズムや支援の仕方について言及できる力を育てることを目標とする。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	教職実践演習[小学校2班]
教員名（専門分野）	小原 達朗（スポーツ科学(運動生理学、トレーニング論)、身体教育学(子どもの体と心)） 寺嶋 浩介（教育工学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職実践演習
単位数・受講者数	2単位 ・ 24名
対象課程・対象学年	<input checked="" type="checkbox"/> 学部・修士・教職大学院 4年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所に下線)	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（授業の進め方，目的の確認，評価に関する説明）（クラス担当教員） 2 教職の意義，使命感（テーマ①の担当教員） 3 子どもとの触れ合い（テーマ①の担当教員） 4 教育活動での安全管理（テーマ①の担当教員） 5 社会人としての基礎・基本（テーマ②の担当教員他） 6 職位と職務の理解と職域社会におけるコミュニケーション（テーマ②の担当教員） 7 様々な対人対応（特に保護者や地域との対応）（テーマ②の担当教員） <u>8 いじめ・不登校など子どもの理解（テーマ③の担当教員）</u> 9 学級経営の考え方と案作り（テーマ③の担当教員） 10 学級集団作りの手法（テーマ③の担当教員） 11 教材研究の視点と実務（テーマ④の担当教員） 12 学習指導案の作成（テーマ④の担当教員） 13 子どもの反応に応じた適切な学習指導（テーマ④の担当教員） 14 課題研究発表会及び資質再チェック1（クラス担当教員） 15 課題研究発表会及び資質再チェック2（クラス担当教員）

【授業内容】

8 いじめ・不登校など子どもの理解（テーマ③の担当教員）

- 文科省による「いじめ」及び「不登校」の定義の確認
- 「いじめ」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・諸外国との比較
 - ・現在の日本のいじめ問題
- 「不登校」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・不登校のタイプ別対応法
 - ・応答訓練
- いじめ⇒不登校，いじめ⇒自殺 など 新聞記事等を使いながら
グループで、いじめとは何か、未然防止・早期解決のための手立てについて検討を行う。
- シェアリング
- まとめ

いじめ及び不登校は、学校が抱える大きな課題である。その課題に焦点を当て、そのメカニズムや支援の仕方について言及できる力を育てることを目標とする。

【授業内容】

8 いじめ・不登校など子どもの理解（テーマ③の担当教員）

- 文科省による「いじめ」及び「不登校」の定義の確認
- 「いじめ」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・諸外国との比較
 - ・現在の日本のいじめ問題
- 「不登校」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・不登校のタイプ別対応法
 - ・応答訓練
- いじめ⇒不登校，いじめ⇒自殺 など 新聞記事等を使いながら
グループで、いじめとは何か、未然防止・早期解決のための手立てについて検討を行う。
- シェアリング
- まとめ

いじめ及び不登校は、学校が抱える大きな課題である。その課題に焦点を当て、そのメカニズムや支援の仕方について言及できる力を育てることを目標とする。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	教職実践演習[小学校 4 班]
教員名（専門分野）	福田 正弘（教科教育学(社会科教育学)、科学教育(科学的社會認識))
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職実践演習
単位数・受講者数	2 単位 ・ 21 名
対象課程・対象学年	<input checked="" type="checkbox"/> 学部・修士・教職大学院 4 年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所に下線)	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（授業の進め方, 目的の確認, 評価に関する説明）（クラス担当教員） 2 教職の意義, 使命感（テーマ①の担当教員） 3 子どもとの触れ合い（テーマ①の担当教員） 4 教育活動での安全管理（テーマ①の担当教員） 5 社会人としての基礎・基本（テーマ②の担当教員他） 6 職位と職務の理解と職域社会におけるコミュニケーション（テーマ②の担当教員） 7 様々な対人対応（特に保護者や地域との対応）（テーマ②の担当教員） <u>8 いじめ・不登校など子どもの理解（テーマ③の担当教員）</u> 9 学級経営の考え方と案作り（テーマ③の担当教員） 10 学級集団作りの手法（テーマ③の担当教員） 11 教材研究の視点と実務（テーマ④の担当教員） 12 学習指導案の作成（テーマ④の担当教員） 13 子どもの反応に応じた適切な学習指導（テーマ④の担当教員） 14 課題研究発表会及び資質再チェック 1（クラス担当教員） 15 課題研究発表会及び資質再チェック 2（クラス担当教員）

【授業内容】

8 いじめ・不登校など子どもの理解（テーマ③の担当教員）

- 文科省による「いじめ」及び「不登校」の定義の確認
- 「いじめ」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・諸外国との比較
 - ・現在の日本のいじめ問題
- 「不登校」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・不登校のタイプ別対応法
 - ・応答訓練
- いじめ⇒不登校，いじめ⇒自殺 など 新聞記事等を使いながら
グループで、いじめとは何か、未然防止・早期解決のための手立てについて検討を行う。
- シェアリング
- まとめ

いじめ及び不登校は、学校が抱える大きな課題である。その課題に焦点を当て、そのメカニズムや支援の仕方について言及できる力を育てることを目標とする。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	教職実践演習[小学校5班]
教員名（専門分野）	鈴木 慶子（教科教育学(書写書道教育)）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職実践演習
単位数・受講者数	2単位 ・ 20名
対象課程・対象学年	<input checked="" type="checkbox"/> 学部・修士・教職大学院 4年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（授業の進め方、目的の確認、評価に関する説明）（クラス担当教員） 2 教職の意義、使命感（テーマ①の担当教員） 3 子どもとの触れ合い（テーマ①の担当教員） 4 教育活動での安全管理（テーマ①の担当教員） 5 社会人としての基礎・基本（テーマ②の担当教員他） 6 職位と職務の理解と職域社会におけるコミュニケーション（テーマ②の担当教員） 7 様々な対人対応（特に保護者や地域との対応）（テーマ②の担当教員） <u>8 いじめ・不登校など子どもの理解（テーマ③の担当教員）</u> 9 学級経営の考え方と案作り（テーマ③の担当教員） 10 学級集団作りの手法（テーマ③の担当教員） 11 教材研究の視点と実務（テーマ④の担当教員） 12 学習指導案の作成（テーマ④の担当教員） 13 子どもの反応に応じた適切な学習指導（テーマ④の担当教員） 14 課題研究発表会及び資質再チェック1（クラス担当教員） 15 課題研究発表会及び資質再チェック2（クラス担当教員）

【授業内容】

8 いじめ・不登校など子どもの理解（テーマ③の担当教員）

- 文科省による「いじめ」及び「不登校」の定義の確認
- 「いじめ」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・諸外国との比較
 - ・現在の日本のいじめ問題
- 「不登校」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・不登校のタイプ別対応法
 - ・応答訓練
- いじめ⇒不登校，いじめ⇒自殺 など 新聞記事等を使いながら
グループで、いじめとは何か、未然防止・早期解決のための手立てについて検討を行う。
- シェアリング
- まとめ

いじめ及び不登校は、学校が抱える大きな課題である。その課題に焦点を当て、そのメカニズムや支援の仕方について言及できる力を育てることを目標とする。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	教職実践演習[小学校 6 班]
教員名（専門分野）	赤崎 眞弓（教科教育学(家庭科教育)）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職実践演習
単位数・受講者数	2 単位 ・ 21 名
対象課程・対象学年	<input checked="" type="checkbox"/> 学部・修士・教職大学院 4 年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（授業の進め方, 目的の確認, 評価に関する説明）（クラス担当教員） 2 教職の意義, 使命感（テーマ①の担当教員） 3 子どもとの触れ合い（テーマ①の担当教員） 4 教育活動での安全管理（テーマ①の担当教員） 5 社会人としての基礎・基本（テーマ②の担当教員他） 6 職位と職務の理解と職域社会におけるコミュニケーション（テーマ②の担当教員） 7 様々な対人対応（特に保護者や地域との対応）（テーマ②の担当教員） <u>8 いじめ・不登校など子どもの理解（テーマ③の担当教員）</u> 9 学級経営の考え方と案作り（テーマ③の担当教員） 10 学級集団作りの手法（テーマ③の担当教員） 11 教材研究の視点と実務（テーマ④の担当教員） 12 学習指導案の作成（テーマ④の担当教員） 13 子どもの反応に応じた適切な学習指導（テーマ④の担当教員） 14 課題研究発表会及び資質再チェック 1（クラス担当教員） 15 課題研究発表会及び資質再チェック 2（クラス担当教員）

【授業内容】

8 いじめ・不登校など子どもの理解（テーマ③の担当教員）

- 文科省による「いじめ」及び「不登校」の定義の確認
- 「いじめ」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・諸外国との比較
 - ・現在の日本のいじめ問題
- 「不登校」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・不登校のタイプ別対応法
 - ・応答訓練
- いじめ⇒不登校，いじめ⇒自殺 など 新聞記事等を使いながら
グループで、いじめとは何か、未然防止・早期解決のための手立てについて検討を行う。
- シェアリング
- まとめ

いじめ及び不登校は、学校が抱える大きな課題である。その課題に焦点を当て、そのメカニズムや支援の仕方について言及できる力を育てることを目標とする。

【授業内容】

8 いじめ・不登校など子どもの理解（テーマ③の担当教員）

- 文科省による「いじめ」及び「不登校」の定義の確認
- 「いじめ」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・諸外国との比較
 - ・現在の日本のいじめ問題
- 「不登校」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・不登校のタイプ別対応法
 - ・応答訓練
- いじめ⇒不登校，いじめ⇒自殺 など 新聞記事等を使いながら
グループで、いじめとは何か、未然防止・早期解決のための手立てについて検討を行う。
- シェアリング
- まとめ

いじめ及び不登校は、学校が抱える大きな課題である。その課題に焦点を当て、そのメカニズムや支援の仕方について言及できる力を育てることを目標とする。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	教職実践演習[中学校 2 班]
教員名（専門分野）	平岡 賢治（教科教育学(教科教育学)、科学教育(数学教育)）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職実践演習
単位数・受講者数	2 単位 ・ 19 名
対象課程・対象学年	<input checked="" type="checkbox"/> 学部・修士・教職大学院 4 年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（授業の進め方, 目的の確認, 評価に関する説明）（クラス担当教員） 2 教職の意義, 使命感（テーマ①の担当教員） 3 子どもとの触れ合い（テーマ①の担当教員） 4 教育活動での安全管理（テーマ①の担当教員） 5 社会人としての基礎・基本（テーマ②の担当教員他） 6 職位と職務の理解と職域社会におけるコミュニケーション（テーマ②の担当教員） 7 様々な対人対応（特に保護者や地域との対応）（テーマ②の担当教員） <u>8 いじめ・不登校など子どもの理解（テーマ③の担当教員）</u> 9 学級経営の考え方と案作り（テーマ③の担当教員） 10 学級集団作りの手法（テーマ③の担当教員） 11 教材研究の視点と実務（テーマ④の担当教員） 12 学習指導案の作成（テーマ④の担当教員） 13 子どもの反応に応じた適切な学習指導（テーマ④の担当教員） 14 課題研究発表会及び資質再チェック 1（クラス担当教員） 15 課題研究発表会及び資質再チェック 2（クラス担当教員）

【授業内容】

8 いじめ・不登校など子どもの理解（テーマ③の担当教員）

- 文科省による「いじめ」及び「不登校」の定義の確認
- 「いじめ」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・諸外国との比較
 - ・現在の日本のいじめ問題
- 「不登校」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・不登校のタイプ別対応法
 - ・応答訓練
- いじめ⇒不登校，いじめ⇒自殺 など 新聞記事等を使いながら
グループで、いじめとは何か、未然防止・早期解決のための手立てについて検討を行う。
- シェアリング
- まとめ

いじめ及び不登校は、学校が抱える大きな課題である。その課題に焦点を当て、そのメカニズムや支援の仕方について言及できる力を育てることを目標とする。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	教職実践演習[中学校3班]
教員名（専門分野）	藤木 卓（教育工学、教科教育学(教科教育学)）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職実践演習
単位数・受講者数	2単位 ・ 28名
対象課程・対象学年	<input type="checkbox"/> 学部・修士・教職大学院 4年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（授業の進め方、目的の確認、評価に関する説明）（クラス担当教員） 2 教職の意義、使命感（テーマ①の担当教員） 3 子どもとの触れ合い（テーマ①の担当教員） 4 教育活動での安全管理（テーマ①の担当教員） 5 社会人としての基礎・基本（テーマ②の担当教員他） 6 職位と職務の理解と職域社会におけるコミュニケーション（テーマ②の担当教員） 7 様々な対人対応（特に保護者や地域との対応）（テーマ②の担当教員） <u>8 いじめ・不登校など子どもの理解（テーマ③の担当教員）</u> 9 学級経営の考え方と案作り（テーマ③の担当教員） 10 学級集団作りの手法（テーマ③の担当教員） 11 教材研究の視点と実務（テーマ④の担当教員） 12 学習指導案の作成（テーマ④の担当教員） 13 子どもの反応に応じた適切な学習指導（テーマ④の担当教員） 14 課題研究発表会及び資質再チェック1（クラス担当教員） 15 課題研究発表会及び資質再チェック2（クラス担当教員）

【授業内容】

8 いじめ・不登校など子どもの理解（テーマ③の担当教員）

- 文科省による「いじめ」及び「不登校」の定義の確認
- 「いじめ」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・諸外国との比較
 - ・現在の日本のいじめ問題
- 「不登校」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・不登校のタイプ別対応法
 - ・応答訓練
- いじめ⇒不登校，いじめ⇒自殺 など 新聞記事等を使いながら
グループで、いじめとは何か、未然防止・早期解決のための手立てについて検討を行う。
- シェアリング
- まとめ

いじめ及び不登校は、学校が抱える大きな課題である。その課題に焦点を当て、そのメカニズムや支援の仕方について言及できる力を育てることを目標とする。

【授業内容】

8 いじめ・不登校など子どもの理解（テーマ③の担当教員）

- 文科省による「いじめ」及び「不登校」の定義の確認
- 「いじめ」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・諸外国との比較
 - ・現在の日本のいじめ問題
- 「不登校」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・不登校のタイプ別対応法
 - ・応答訓練
- いじめ⇒不登校，いじめ⇒自殺 など 新聞記事等を使いながら
グループで、いじめとは何か、未然防止・早期解決のための手立てについて検討を行う。
- シェアリング
- まとめ

いじめ及び不登校は、学校が抱える大きな課題である。その課題に焦点を当て、そのメカニズムや支援の仕方について言及できる力を育てることを目標とする。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	教職実践演習[幼稚園 1 班]
教員名（専門分野）	井口 均（教育学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職実践演習
単位数・受講者数	2 単位 ・ 1 4 名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 4 年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（授業の進め方，目的の確認，評価に関する説明）（クラス担当教員） 2 教職の意義，使命感（テーマ①の担当教員） 3 子どもとの触れ合い（テーマ①の担当教員） 4 教育活動での安全管理（テーマ①の担当教員） 5 社会人としての基礎・基本（テーマ②の担当教員他） 6 職位と職務の理解と職域社会におけるコミュニケーション（テーマ②の担当教員） 7 様々な対人対応（特に保護者や地域との対応）（テーマ②の担当教員） <u>8 いじめ・不登校など子どもの理解（テーマ③の担当教員）</u> 9 学級経営の考え方と案作り（テーマ③の担当教員） 10 学級集団作りの手法（テーマ③の担当教員） 11 教材研究の視点と実務（テーマ④の担当教員） 12 学習指導案の作成（テーマ④の担当教員） 13 子どもの反応に応じた適切な学習指導（テーマ④の担当教員） 14 課題研究発表会及び資質再チェック 1（クラス担当教員） 15 課題研究発表会及び資質再チェック 2（クラス担当教員）

【授業内容】

8 いじめ・不登校など子どもの理解（テーマ③の担当教員）

- 文科省による「いじめ」及び「不登校」の定義の確認
- 「いじめ」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・諸外国との比較
 - ・現在の日本のいじめ問題
- 「不登校」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・不登校のタイプ別対応法
 - ・応答訓練
- いじめ⇒不登校，いじめ⇒自殺 など 新聞記事等を使いながら
グループで、いじめとは何か、未然防止・早期解決のための手立てについて検討を行う。
- シェアリング
- まとめ

いじめ及び不登校は、学校が抱える大きな課題である。その課題に焦点を当て、そのメカニズムや支援の仕方について言及できる力を育てることを目標とする。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	教職実践演習[幼稚園 2 班]
教員名（専門分野）	小西 祐馬（社会福祉学、社会学、教育社会学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職実践演習
単位数・受講者数	2 単位 ・ 1 8 名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 4 年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（授業の進め方、目的の確認、評価に関する説明）（クラス担当教員） 2 教職の意義、使命感（テーマ①の担当教員） 3 子どもとの触れ合い（テーマ①の担当教員） 4 教育活動での安全管理（テーマ①の担当教員） 5 社会人としての基礎・基本（テーマ②の担当教員他） 6 職位と職務の理解と職域社会におけるコミュニケーション（テーマ②の担当教員） 7 様々な対人対応（特に保護者や地域との対応）（テーマ②の担当教員） <u>8 いじめ・不登校など子どもの理解（テーマ③の担当教員）</u> 9 学級経営の考え方と案作り（テーマ③の担当教員） 10 学級集団作りの手法（テーマ③の担当教員） 11 教材研究の視点と実務（テーマ④の担当教員） 12 学習指導案の作成（テーマ④の担当教員） 13 子どもの反応に応じた適切な学習指導（テーマ④の担当教員） 14 課題研究発表会及び資質再チェック 1（クラス担当教員） 15 課題研究発表会及び資質再チェック 2（クラス担当教員）

【授業内容】

8 いじめ・不登校など子どもの理解（テーマ③の担当教員）

- 文科省による「いじめ」及び「不登校」の定義の確認
- 「いじめ」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・諸外国との比較
 - ・現在の日本のいじめ問題
- 「不登校」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・不登校のタイプ別対応法
 - ・応答訓練
- いじめ⇒不登校，いじめ⇒自殺 など 新聞記事等を使いながら
グループで、いじめとは何か、未然防止・早期解決のための手立てについて検討を行う。
- シェアリング
- まとめ

いじめ及び不登校は、学校が抱える大きな課題である。その課題に焦点を当て、そのメカニズムや支援の仕方について言及できる力を育てることを目標とする。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	子どもの情動といじめ
教員名（専門分野）	柳田 泰典 （教育学(教育社会学)）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教育の基礎理論に関する科目 ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項
単位数・受講者数	2単位 ・ 13名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>第1回：<u>「トイレの神様」と「認知－情動－行為」様式</u></p> <p>第2回：<u>「トイレの神様」と「間主観性」</u></p> <p>第3回：<u>いじめなくしたい project1（中学生日記 NHK）</u></p> <p>第4回：<u>グループ討論</u></p> <p>第5回：<u>いじめなくしたい project2（中学生日記 NHK）</u></p> <p>第6回：<u>グループ討論</u></p> <p>第7回：<u>いじめなくしたい project3（中学生日記 NHK）</u></p> <p>第8回：<u>グループ討論</u></p> <p>第9回：<u>内藤朝雄『いじめの社会理論』の検討</u></p> <p>第10回：<u>グループ討論</u></p> <p>第11回：<u>いじめにおける4つの解決方法</u></p> <p>第12回：<u>課題別グループ討論1</u> <u>『君をまもりたい』『ゼロトレランス』『学級の廃止』『学級コミュニケーションの転換：科学的認識と市民教育主義』</u></p> <p>第13回：<u>課題別グループ討論2</u></p> <p>第14回：<u>課題別グループ討論3</u></p> <p>第15回：<u>グループ発表1</u></p> <p>第16回：<u>グループ発表2</u></p>

【授業内容】

第1回：「トイレの神様」と「認知－情動－行為」様式

第2回：「トイレの神様」と「間主観性」

第3回：いじめなくしたい project1 (中学生日記 NHK)

第4回：グループ討論

第5回：いじめなくしたい project2 (中学生日記 NHK)

第6回：グループ討論

第7回：いじめなくしたい project3 (中学生日記 NHK)

第8回：グループ討論

第9回：内藤朝雄『いじめの社会理論』の検討

第10回：グループ討論

第11回：いじめにおける4つの解決方法

第12回：課題別グループ討論1

『君をまもりたい』『ゼロトレランス』『学級の廃止』

「学級コミュニケーションの転換：科学的認識と市民教育主義」

第13回：課題別グループ討論2

第14回：課題別グループ討論3

第15回：グループ発表1

第16回：グループ発表2

いじめを「認知－情動－行為」様式ととらえるとともに改善および解決方法を考察することを目標とし、事例分析、理論分析および改善方法の検討を講義とグループ討論によって実施する。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	生徒指導[a 班]
教員名（専門分野）	松尾 博臣（教育学(生徒指導、生涯学習)）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 ・生徒指導の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法
単位数・受講者数	2 単位 ・ 1 1 2 名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 4 年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	第 1 回 授業ガイダンス 第 2 回 生徒指導の基本的考え方 第 3 回 問題行動の実態概要 第 4 回 暴力行為 第 5 回 体罰の禁止 第 6 回 集団指導と個別指導の意義、学校における生徒指導体制 <u>第 7 回 いじめ 1</u> <u>第 8 回 いじめ 2</u> 第 9 回 児童生徒の心理と児童生徒理解 第 10 回 不登校 1 第 11 回 不登校 2 第 12 回 携帯電話を巡る課題 第 13 回 保護者対応 1 第 14 回 保護者対応 2 第 15 回 学校・家庭・地域の連携 第 16 回 ふりかえり

【授業内容】

第7回 いじめ1

いじめの定義

いじめの状況

認知件数とその推移

現在の解消率等

学年別認知件数

いじめられた児童生徒の相談状況

いじめの態様

いじめられた児童生徒への対応

いじめの日常的な実態把握のために

学校が直接児童生徒に行った具体的な方法

いじめ相談ホットライン

いじめの基本的な考え方

いじめの早期発見・早期対応について

いじめを許さない学校づくりについて

いじめの4層構造

第8回 いじめ2

長崎県に見るいじめ対応施策

いじめが起こった場合の対応方法

事実確認の留意点

いじめの判断

対応上の留意点

チームによる対応の仕方

いじめのサインと教師のチェックポイント

いじめている子どもへの指導

傍観的な立場の子どもへの指導

ケーススタディ

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	学校カウンセリング[a 班]
教員名（専門分野）	内野 成美 （臨床心理学、教育心理学、特別支援教育）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 ・生徒指導の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法
単位数・受講者数	2 単位 ・ 120 名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 4 年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	1 生徒指導と学校カウンセリング① 2 生徒指導と学校カウンセリング② 3 カウンセリングの基本技法① 4 カウンセリングの基本技法② 5 子どもの教育上の諸問題① 6 子どもの教育上の諸問題② 7 不登校 <u>8 いじめ</u> 9 特別支援教育 10 学校内外との連携 11 保護者との連携 12 個別のカウンセリング① 13 個別のカウンセリング② 14 集団へのカウンセリング① 15 集団へのカウンセリング② 16 最終のレポートの提出

【授業内容】

8 いじめ

- いじめとは何か、何を持っていじめとするかをグループの中でまず考える活動を行う。
- 文科省によるいじめの定義の確認
- 「いじめ」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・諸外国との比較
 - ・現在の日本のいじめ問題
- いじめ⇒不登校, いじめ⇒自殺 など 新聞記事等を使いながら
グループで、いじめとは何か、未然防止・早期解決のための手立てについて検討を行う。
- シェアリング
- まとめ

いじめは被害者の立場に立って対応を行うべきものとされているが、実際にその状況になると、何がいじめなのか、被害と加害の状況等も見えづらいとされる。

その見えづらさを実際に追体験しながら、教師としてどのような支援を考えていくのかを考えることができるよう授業を構成している。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	教育相談（開講科目：経済学部）
教員名（専門分野）	内野 成美（臨床心理学、教育心理学、特別支援教育）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 25名
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 2, 3年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>第1回 教育相談の意義について学ぶ</p> <p>第2回 教育相談と生徒指導の領域について学ぶ</p> <p>第3回 児童生徒理解の領域について学ぶ</p> <p>第4回 児童生徒理解の方法について学ぶ</p> <p>第5回 カウンセリングの基本技法について学ぶ</p> <p>第6回 カウンセリングの基本技法を体験する</p> <p>第7回 不登校児童生徒への理解について学ぶ</p> <p>第8回 不登校児童生徒への対応について学ぶ</p> <p>第9回 発達障害の児童生徒への理解について学ぶ</p> <p>第10回 発達障害の児童生徒への対応について学ぶ</p> <p><u>第11回 いじめ問題について学ぶ</u></p> <p>第12回 学級崩壊の問題について学ぶ</p> <p>第13回 危機介入について学ぶ</p> <p>第14回 学級集団への援助の方法について学ぶ</p> <p>第15回 学級集団への援助の方法を体験する</p> <p>第16回 授業の総括（まとめ、試験を含む）</p>

【授業内容】

第11回 いじめ問題について学ぶ

- いじめとは何か、何を持っていじめとするかをグループの中でまず考える活動を行う。
- 文科省によるいじめの定義の確認
- 「いじめ」を知る
 - ・歴史的流れ
 - ・諸外国との比較
 - ・現在の日本のいじめ問題
- いじめ⇒不登校、いじめ⇒自殺 など 新聞記事等を使いながら
グループで、いじめとは何か、未然防止・早期解決のための手立てについて検討を行う。
- シェアリング
- まとめ

いじめは被害者の立場に立って対応を行うべきものとされているが、実際にその状況になると、何がいじめなのか、被害と加害の状況等も見えづらいとされる。

その見えづらさを実際に追体験しながら、教師としてどのような支援を考えていくのかを考えることができるよう授業を構成している。

【授業内容】

2. 「いじめ」の背景と構造

(1) 孤立化、無力化、透明化の構図

・・・いじめの政治学

(2) 参加型暴力としてのいじめ

・・・「善悪をきびしく教える」「規範意識を育てる」ことの限界

(3) 学校における「暴力的・権力的」の読み解き、読みかえ

・・・教師と子どもが共同で「意識化」し、平和なルールをつくる

3. 「いじめ」におけるおとな社会と子ども社会の連続性

(1) おとな社会が「いじめ」社会なのである。

・・・職場の「いじめ」、ワーキングプアと過労死の接続性

(2) 競争原理、消費社会と子どもの世界

・・・評価と差異化と序列化

(3) 貧困と教育の連鎖をみる

・・・「貧困－排除－剥奪」と自己責任のイデオロギーをのりこえる

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（熊本大学・教育学部）

授業科目名	教育集団心理学
教員名（専門分野）	八ッ塚 一郎（社会心理学、集団力学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	選択必修
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導・教育相談及び進路指導等に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 164名
対象課程・対象学年	学部 3年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>はじめに～アクションリサーチと教育、いじめ問題</u> 2. 基本原理～人間科学の基礎理論 3. 基本原理2～実践活動の論理と倫理 4. エスノグラフィ1～集団に対する視点 5. エスノグラフィ2～教室集団を考える 6. 集団研究の補論～集団の病理に即して 7. インタビュー～ゆたかな対話のための技法 8. ナラティブ1～現代心理学の最前線 9. ナラティブ2～ナラティブセラピーの考え方 10. ナラティブ3～ことばとその実践 11. <u>言説分析～いじめ言説の解読</u> 12. 精神分析～心理学再考 13. <u>いじめの集団力学と現代的变化</u> 14. <u>いじめ問題への対処</u> 15. まとめ

【授業内容】

1. はじめに～アクションリサーチと教育、いじめ問題

導入として「葬式ごっこ」事件（中野富士見中いじめ自殺事件）などを取り上げ、いじめ問題への理解を確認し関心を高める。

11. 言説分析～いじめ言説の解読

いじめ報道、自殺児童生徒の遺書、保護者の手記などを取り上げ、いじめの実情、その背景と影響などについて理解を深める。

13. いじめの集団力学と現代的变化

いじめの発生するメカニズムを心理学的に説明し、現代社会における変化を踏まえて、その特徴や対処の難しさ、対策の必要性を考える。

14. いじめ問題への対処

発生後の対処の仕方と行ってはならない対処の仕方、早期に発見するための手がかり、発生させないための普段の指導と授業のあり方などについて検討する。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（熊本大学・教育学部）

授業科目名	教育相談
教員名（専門分野）	柴山 謙二（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修 ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職科目、生徒指導・教育相談及び進路指導等に関する科目、教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位・110名、110名、40名、40名の4クラス
対象課程・対象学年	教育学部 ：2年生2クラス、 文学部 ：3年生1クラス 養護教諭特別別科 ：1クラス対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>○目標</p> <p>様々な心理的課題を抱えている生徒に対して、学校内で教師が実行すべき教育相談（心理教育法やカウンセリング）の基本的知識と技術を学習します。</p> <p># 1：平成 23 年度「児童生徒の問題行動等調査」（文部科学省）のデータ、児童生徒の「心理的問題」と現代社会</p> <p># 2：中学校の教育相談の実際例、教育相談体制の解説</p> <p># 3：「問題行動」と不適切な行動</p> <p># 4：個人心理学から見た学校教育への適用－小・中学校</p> <p># 5：教科教育における教育相談（精神的健康）の側面－中学校</p> <p># 6：特別活動（学級会活動）と精神的健康</p> <p># 7：心理教育法（構成的グループエンカウンター）</p> <p># 8：心理教育法（ソーシャルスキル教育）</p> <p># 9：心理教育法（班活動とクラス会議、含むいじめへの対処）</p> <p><u># 10：いじめ問題への対処：学級会活動・生徒会活動の実際例</u></p> <p><u># 11：いじめ問題への対処：いじめの定義、いじめ問題を抱えた教師へのコンサルテーション、いじめの予防</u></p> <p># 12：学校教育カウンセリング：教育相談事例</p> <p><u># 13：学校教育カウンセリング：いじめ問題へのグループカウンセリング事例</u></p> <p># 14：不登校の児童生徒への対処：定義、事例、包括的対応</p> <p># 15：不登校の児童生徒への対処：家族カウンセリング</p> <p>○筆記試験</p>

【授業内容】

#10：いじめ問題への対処：学級会活動・生徒会活動の実際例

○導入：

- ・ 前回のミニッツ・レポートへのコメント

特に、小学校教諭による実践例に見られる自発協働学習・班活動・クラス会議の意義、個別的な対処の必要性をコメントする。

- ・ 隣同士で意見の交換。

<中学校でもめ事やトラブル、いじめに関する体験？>

<それらをどのように解決していたか？>

○展開

1) 中学校教師による学級会活動を中心とした取組み事例（尾木直樹(1997)「いじめ その発見と新しい克服法」学陽書房*、第7章、前半部）の読み込み：

- ・ 前半部についての学生同士の意見の交換

- ・ 質問の受付

- ・ 前半部についての解説：

個人心理学の適用目標（共同体感覚の開発と私的論理の改善）と関連させながら、次のポイントを解説する。

①教育観、②学級経営観、③いじめの種類・態様、④いじめられた生徒の認知・認識・感情

⑤アプローチの意義（クラス全体の責任、保護者会の討論と家庭教育、アンケート調査）

⑥思春期特有の発達課題との関連、⑦調査結果の集約・活用と和解作業の効果

2) 同取組み事例の後半部の読み込み

- ・ 後半部についての学生同士の意見の交換

- ・ 質問の受付

- ・ 後半部の次のポイントについて解説：

①学級集団の質的向上の指標、②学年・学校全体の問題としての風潮といじめ、③生徒会活動の意義、④生徒会によるアピールの読みあげと学級討論の効果、⑤民主的人間関係の形成、⑥市民性教育の必要性

○まとめ

- ・ 共同体感覚の開発と私的論理の改善

- ・ 平素からの教師のカウンセリング・アティチュードに基づく信頼関係づくり

- ・ いじめの層構造とシステム論的アプローチとしての学級会活動／クラス会議の意義

○ミニッツ・レポート（3～5分間）

- ・ <資料と解説で印象深いこと、認識が深まったこと？ 感想や質問>

* 著者（尾木直樹氏）から多量印刷の許可をいただいている。

【授業内容】

#11：いじめ問題への対処：いじめの定義、教師へのコンサルテーション、いじめの予防

○導入

- ・前回のミニッツ・レポートへのコメント

学生のレポート内容から、いじめの定義（いじめられた生徒の認知や感情）、及び学級会活動の実施率の低下を克服するためのクラス会議の心理教育法としての意義に話を結びつける。

○展開

1) いじめとは

- ・文部科学省のいじめの定義（2007）、及びその変更の背景と理由の解説
- ・「いじめーいじめられ問題」の6層構造（加害者・被害者・観衆・傍観者・仲介者+教師）と日本人の均質性を求め異質を排除する傾向、力の行使による快感等の解説
- ・「いじめは何処でも起る」ことの調査結果（国立教育研究所生徒指導研究センター（2010）：いじめ追跡調査）の解説
- ・いじめの原因論と目的論の解説

2) 講師によるいじめ問題を抱えた教師へのコンサルテーション事例の読み込み：

- ・柴山謙二(2007)：「いじめ」への対応技法としてのクラス会議の意義～中学校担任教諭へのコンサルテーションを通して～、日本生徒指導学会第8回大会発表要旨論集
- ・学生同士の意見の交換 ⇒ 質問の受付
- ・本事例研究についての解説：
①学校教育相談体制と登校支援委員会及びスクールカウンセラーの参入意義、②スクールカウンセラーと教師とのコーディネータとしての養護教諭の重要性、③コンサルテーションの定義と必要性、④事例に見られるカウンセリング・アティチュードとカウンセリング・スキル、⑤当該担任教諭の自我の安定性とコーピング方法の汲み上げ、⑥その後の経過と効果

3) IT 機器ヴァーチャルな世界のいじめへの対応（文部科学省・国立教育政策研究所生徒指導研究センター（2007）：いじめ問題に対する取組事例集）の紹介

- ・学校内指導体制の確立と関連諸機関との連携（触法レベルの場合の対処策）

4) いじめの予防的アプローチの必要性

液晶プロジェクタによる絵本（松谷みよ子・味戸ケイコ（1987）：わたしのいもうと 偕成社）の映写：出席学生による読み聞かせ。指導案の提供。いじめによる悲惨な結末。

○まとめ

- ・クラス会議の意義、心理教育法といじめ抑止法による予防的アプローチの必要性を強調する。

○ミニッツ・レポート（3～5分間）

- ・＜資料と解説で印象深いこと、認識が深まったこと？ 感想や質問＞

【授業内容】

#13：学校教育カウンセリング：いじめ問題へのグループカウンセリング事例

○導入

- ・前回のミニッツ・レポートへのコメント。

学生のレポート内容から、学校教育への現実療法の使い易さとカウンセリング・プロセスの明快さを浮き彫りにする。カウンセリング・プロセス（問題の語りと信頼関係の形成・願望の特定・実際生活での行動・自己評価／他者評価・好ましいあり方への選択・願望実現のための手立ての模索・フォローアップ）を解説する。教師とスクールカウンセラーの連携・協働の重要性・必要性を考えさせる。

○展開

1) 講師によるいじめ問題へのグループカウンセリング事例の読み込み：

- ・柴山謙二(2004)：選択理論心理学に基づくスクールカウンセリング活動といじめられる辛さを訴える女子生徒へのグループ・カウンセリング 選択理論心理学研究、第8巻第1号、43-59.
- ・学生同士の意見の交換 ⇒ 質問の受付
- ・本事例研究についての解説：

①学校教育相談体制と登校支援委員会及びスクールカウンセラーの参入意義、②スクールカウンセラーと教師とのコーディネータとしての養護教諭の重要性、③事例に則した個人カウンセリングの3本柱（アティチュード・スキル・プロセス）の使用法、④フォローアップと連携、⑤避難所・登校支援の場としてのカウンセリング室の意義、④来室生徒同士によるピアサポート、⑤学級復帰後の学級内のピアサポート、⑤いじめの層構造の把握と仲介者との結びつきの強化、⑥自己表現と共感的理解による仲間の強化、⑦担任の役割と加害者への対応の勇気づけ、⑧再びフォローアップと連携の重要性

2) 学生同士の意見交換

- ・＜自分の中学生時代の友人関係？＞
- ・中学生のチャムシップ
- ・ピアサポート活動の有効性と必要性

3) 現実療法とは

- ・カウンセリング理論の確認
- ・カウンセリング・プロセスの重要性

○まとめ

- ・現実療法の強み：カウンセリング・プロセスの明快さ、汎用性（グロス・カウンセリング、授業や部活での目標実現のためのカウンセリング、学級経営の観点）

○ミニッツ・レポート（3～5分間）

- ・＜資料と解説で印象深いこと、認識が深まったこと？ 感想や質問＞

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（熊本大学・教育学部）

授業科目名	生徒指導の心理学
教員名（専門分野）	藤中 隆久（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ 選択必修 ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教育の基礎理論
単位数・受講者数	2単位 ・ 80名
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 2年生対象
<p>授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）</p> <p>*** いじめ問題を教師の教育力、 学級内力動、学級経営の問題 と捉えれば、全ての講義がい じめに関連すると言えるの で、15回全て。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>積極的生徒指導</u> 2. <u>消極的生徒指導</u> 3. <u>教育とは何か</u> 4. <u>セラピストの3条件</u> 5. <u>セラピストの3条件</u> 6. <u>セラピストの3条件</u> 7. <u>学級崩壊</u> 8. <u>学級崩壊</u> 9. <u>学校における良い授業</u> 10. <u>学校における良い授業</u> 11. <u>いじめ問題の概論</u> 12. <u>いじめの予防と解決</u> 13. <u>不登校</u> 14. <u>不登校</u> 15. <u>まとめ</u>

【授業内容】

1. 積極的生徒指導

生徒指導とはなにかあったときの対応をすることではない。普段の教育活動そのものが、何かを起こさない予防となる。また普段の教育活動を充実させていれば、何かおこったときの対応も楽になる。

2. 消極的生徒指導

何かおこったときの対応を考える。しかし、学級崩壊、いじめ、不登校、校則違反など、普段の生徒と教師の信頼関係が成り立っていないと、対応できない。

3. 教育とは何か

教育とは児童・生徒を成長させる行為である。そのためには、児童・生徒を理解し信頼関係を築く必要がある。

4. 5. 6. セラピストの3条件

成長促進モデルのカウンセリングの基本原則である、セラピストの3条件を身につけておくと、生徒と教師の信頼関係は作りやすい

7. 8. 学級崩壊

教師がリーダーシップを発揮してよい学級経営をすれば学級崩壊はおこりにくくなる。よい学級経営をすることが、いじめ、不登校の予防ともなる。よい学級経営するための教師力とはなにか、また、それをどのように身につけるのかを考える。

9. 10. 学校における良い授業

よい学級経営をして、学級崩壊、いじめ、不登校を起こさないためには、普段の授業での子どもとの関わりをよくする必要がある。普段の授業での子どもとの関わりをよくすることが即ち、子どもの知識量を増やし学力を高める授業となることが学校における良い授業である。ただ、情報を与えて、テストの点数を高めるだけの授業は少なくとも学校における良い授業ではない。

11. いじめ問題の概論

現代の日本におけるいじめの特徴をデータを読み解きながら考える。

12. いじめ問題の予防と解決

現代の日本におけるいじめの特徴から、どうすればいじめを予防できるか、また、起こったいじめを如何に最小限に食い止めることができるのかを考える。教師がリーダーシップを発揮し、一人一人の児童・生徒を理解し、よい学級を作り、よい授業を実践することで、多くのいじめは予防、最小限の食い止めは可能であろう。また、起こったいじめに対処するために普段からいじめに関する意識の高いクラス作りもしておく必要がある。

13. 14. 不登校

不登校の歴史、不登校の現状、不登校に対して効果があった取り組み、不登校のタイプなどを知り、よい学級経営やよい授業をすることで、学校を楽しくすることで不登校の数を減らすことを考える。また、それでも不登校はおこるのでおこった不登校に如何に対処するかも考える。いじめから不登校に至るような事にならないように学級担任が注意しておくことも考える。

15. まとめ

学級崩壊、いじめ、不登校などの生徒指導上の問題は、おこってからでは遅い。毎日の教育活動の質を上げることで、そのような問題の発生を少なくすることを目指す。また、毎日の教育活動の質を上げることでできた教師のみが、生徒との信頼関係を培い、起こった問題にも対処できる。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（大分大学・教育福祉科学部）

授業科目名	子ども理解の探求
教員名（専門分野）	武内 珠美（臨床心理学）・田中 洋（幼児心理学）
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 25名（発達教育コース）
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体のオリエンテーション 2. 子ども理解の視点（幼児期） 3. 子ども理解の演習（幼児期） 1 4. 子ども理解の演習（幼児期） 2 5. 子ども理解の演習（幼児期） 3 6. 子ども理解の演習（幼児期） 4 7. 子ども理解の演習（幼児期） 5 8. 前半のまとめ 9. 子どもの育ちを家庭と学校の視点から理解する力をつける （主に学童期から思春期） 10. 子ども理解の演習（学童期から思春期） 1 虐待 11. 子ども理解の演習（学童期から思春期） 2 不登校 12. 子ども理解の演習（学童期から思春期） 3 発達障害 13. <u>子ども理解の演習（学童期から思春期） 4 いじめ</u> 14. 子ども理解の演習（学童期から思春期） 5 非行 15. 後半のまとめ

【授業内容】

いじめに関する概要の理解

いじめの種類、いじめのタイプ、いじめにかかわる人たちの呼び名

いじめの予防と対応

いじめの実際の実践事例

など

班ごとに調べて、まとめて発表し、討論する。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（大分大学・教育福祉科学部）

授業科目名	幼児・児童臨床心理学
教員名（専門分野）	前田 明
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 32名
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 3年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション - 本授業の目的 2. 子どもの発達過程と「臨床的な問題」(1) 3. 子どもの発達過程と「臨床的な問題」(2) 4. 発達障害のある子どもの心と行動について (1) 5. 発達障害のある子どもの心と行動について (2) 6. 子どもの発達と精神障害 7. 学童の心の発達と心理的問題 (1) 8. 学童の心の発達と心理的問題 (2) 9. 思春期の心の発達と心理的問題 <u>10.不登校・いじめと暴力・ひきこもり (1)</u> <u>11.不登校・いじめと暴力・ひきこもり (2)</u> <u>12.不登校・いじめと暴力・ひきこもり (3)</u> 13.子どもの心の発達とこども虐待 (1) 14.子どもの心の発達とこども虐待 (2) 15.まとめ 16.試験

【授業内容】

第10回 不登校・いじめと暴力・ひきこもり（1）

いじめの問題の一般歴な背景を講義する中で、特に最近の傾向として、発達障害をもつ子どもが学校の中でいじめを受け、その結果として不登校やひきこもりになっていく過程について説明し、それらの防止や対策について講義している。

第11回 不登校・いじめと暴力・ひきこもり（2）

ここでは主として不登校について講義。

第12回 不登校・いじめと暴力・ひきこもり（3）

英国教育省が発行している『学校におけるいじめ対策パック（An anti bullying pack for schools）』の概要と、同書パート10の“Don't suffer in silence”について、教育相談での実際の経験を照合させながら講義している。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（大分大学・教育福祉科学部）

授業科目名	教育臨床実習 I
教員名（専門分野）	渡辺 亘（臨床心理学）・佐藤晋治（発達障害心理臨床学）・武内珠美（臨床心理学・教育相談・発達心理学）・溝口 剛（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	1 単位 ・ 5 名,
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 4 年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所に下線)	<p>【授業の内容】 児童生徒の心理的・発達のな問題の見立て（アセスメント）やその支援、保護者への理解と支援のあり方、<u>いじめ</u>、不登校、危機介入といった今日的な教育臨床的課題への対応などについてとりあげる。また、実習では、事例に関するディスカッション、援助事例を想定した見立てや援助の実習などを積極的に取り入れる。</p> <p>より詳細な実習の内容および形態は、オリエンテーションにおいて示す。</p> <p>（H24 年度の授業計画）</p> <p>第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：アセスメントの実際 1 ・心理面 第 3 回：アセスメントの実際 2 ・発達面 第 4 回：支援の実際 1 ・コンサルテーション 第 5 回：支援の実際 2 ・カウンセリング 第 6 回：支援の実際 3 ・発達障害への支援 第 7 回：支援の実際 4 ・プレイセラピー 第 8 回：課題ごとの取り組み 1 ・連携 <u>第 9 回：課題ごとの取り組み 2 ・いじめ</u> 第 1 0 回：課題ごとの取り組み 3 ・学習と進路 第 1 1 回：課題ごとの取り組み 4 ・不登校 第 1 2 回：課題ごとの取り組み 5 ・保護者 第 1 3 回：課題ごとの取り組み 6 ・虐待 第 1 4 回：課題ごとの取り組み 7 ・危機介入 第 1 5 回：まとめ</p>

【授業内容】（項目抜粋）

（第9回：課題ごとの取り組み2・いじめ）

1. 日常的な対人関係の延長にある「いじめ」
2. いじめの定義と実態
 - （1）いじめ実態調査
 - ・第1期：1985（昭和60）年度調査～1993（平成5）年度調査
（実態調査が始まった背景，1985年度定義の特徴，いじめ発生件数の推移）
 - ・第2期：1994（平成6）年度調査～2005（平成17）年度調査
（定義見直しの背景，1994年度定義の特徴，いじめ発生件数の推移）
 - ・第3期：2006（平成18）年度調査～
（定義見直しの背景，2006年度定義の特徴，いじめ発生件数の推移）
 - （2）いじめ実態調査が意味するもの
3. 「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」（文部科学省）
 - （1）いじめの認知学校数
 - （2）いじめの現在の状況
 - （3）いじめ発見のきっかけ
 - （4）いじめられた児童生徒の相談状況
 - （5）いじめの態様
 - （6）いじめられた児童生徒への対応
 - （7）いじめの日常的な実態把握のために，学校が直接児童生徒に対し行った具体的な方法
 - （8）都道府県別いじめ認知件数・アンケート実施状況
4. いじめ問題の理解
 - （1）いじめと情緒発達
 - （2）いじめ集団の構造
5. いじめ問題への対応
 - （1）被害者への対応
 - （2）加害者への対応
 - （3）クラス全体への対応
6. いじめの早期発見・早期対応を図るための日常的な取り組み
7. 事例検討

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（宮崎大学・教育文化学部）

授業科目名	生徒指導概論（進路指導を含む。） A
教員名（専門分野）	高橋 高人 （発達心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目 ・生徒指導の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 90名
対象課程・対象学年	<input type="checkbox"/> 学部・修士・教職大学院 3年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒指導とは 2. 児童生徒の理解 <ol style="list-style-type: none"> （1）児童生徒の行動理解 （2）行動のメカニズム 3. 暴力行動 <ol style="list-style-type: none"> （1）暴力行動について （2）暴力行動への対応 4. <u>いじめ</u> <ol style="list-style-type: none"> <u>（1）いじめについて</u> <u>（2）いじめの実態と分析</u> <u>（3）いじめの防止</u> 5. 不登校 <ol style="list-style-type: none"> （1）不登校について （2）不登校の理解 （3）不登校への対応 6. 特別支援教育 <ol style="list-style-type: none"> （1）特別支援教育について （2）特別支援教育の実際 7. 進路指導 <ol style="list-style-type: none"> （1）進路指導について （2）キャリア教育について

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（宮崎大学・教育文化学部）

授業科目名	教育相談心理学（カウンセリングの基礎的知識を含む。） A
教員名（専門分野）	佐藤 容子 （教育臨床）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 90名
対象課程・対象学年	<input checked="" type="checkbox"/> 学部・修士・教職大学院 3年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ul style="list-style-type: none"> （1）教育相談の考え方 （2）教育相談とカウンセリング的援助の違い （3）教師のカウンセリングの基本的姿勢 （4）カウンセリングの基本的技術 （5）発達障害の発見 （6）発達障害と学校不適應の問題 （7）虐待の発見 （8）被虐待児における学校不適應の問題 （9）行動問題の予防 （10）行動問題への対処 <u>（11）いじめの予防と発見</u> <u>（12）いじめへの対処</u> （13）不登校の問題 （14）自殺予防とカウンセリング （15）他の教師や家庭、他機関（医療機関、児童相談所等）との連携

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（鹿児島大学・教育学部）

授業科目名	学校臨床心理Ⅱ
教員名（専門分野）	有倉巳幸（教育心理）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	選択必修
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導，教育相談及び進路指導に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 約 200 名
対象課程・対象学年	学部 2 年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第 1 回：臨床的援助における人間観</p> <p>第 2 回：人間の適応行動についての考え方（適応理論）</p> <p>第 3 回：カウンセリング理論の概説</p> <p>第 4 回：生き方指導としての生徒指導の意義と実際</p> <p>第 5 回：キャリア教育に関する諸理論</p> <p>第 6 回：中学校・高等学校におけるキャリア教育</p> <p>第 7 回：不登校の理解と対応 1（基本的な理解）</p> <p>第 8 回：不登校の理解と対応 2（中学校・高等学校事例を用いて）</p> <p><u>第 9 回：いじめの理解と対応 1（基本的な理解）</u></p> <p><u>第 10 回：いじめの理解と対応 2（中学校・高等学校事例を用いて）</u></p> <p>第 11 回：暴力行為の理解と対応</p> <p>第 12 回：特別な支援を要する生徒の理解と対応</p> <p>第 13 回：保護者の理解・支援と連携の在り方について</p> <p>第 14 回：校内の指導支援体制づくり</p> <p>第 15 回：地域や各種支援リソースの活用について</p>

【授業内容】

今年度スタートの科目で、これから実施の予定なので、詳細は書けません。あくまでも予定です。

1. いじめの統計（文部科学省 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査，2012）
2. いじめの定義（文部科学省の2006年および1994年の定義）
3. いじめに関する基本的な考え方（いじめる心の理解，いじめ行動の問題）
4. いじめの4層構造と，傍観者の心理
5. いじめといじりの違い

【授業内容】

第7回目 「こころの教育をどう実践していくか」(教育論文の基本指導等)

① 「(平成22年度調査)いじめの状況」

※文科省調査から

② ①データを基にこころの教育をどのように実践するかについて講義

参考資料等：生徒指導提要

③ 教育論作文の書き方指導し、課題を与える

→課題【「学校内外における生徒間の『いじめ』の原因や教師の対応のあり方について」あなたの考えを述べよ】

第8回目 「いじめについて」(グループ討議、全体発表・討議)」

① 第7回講義にて与えた課題を基に、各班にて討論行う

② 班代表が全体場で発表

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（琉球大学・教育学部）

授業科目名	学級経営実践
教員名（専門分野）	吉田 浩之（生徒指導）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 9名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 1年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所に下線)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒の学級ニーズを把握する方法－理想と最低限の視点から取り組みを構想する－ 2. 生徒が望む学級像を実現する方法－日課的場面と下位目標を利用した促進的・規制的取り組みを設定する－ 3. 学級担任とクラスメイトへの要望を把握する方法－要望を反映させた教育実践計画を作成する－ 4. <u>いじめの基準を明確にする方法－日課的場面ごとにいじめ言動を明確にし、事例を取り上げて基準を共有する－</u> 5. <u>いじめ・不適応を把握する方法－いじめ・不適応を把握するアンケートの理論と実践方法を理解する－</u> 6. <u>いじめ・不適応に対応する方法－生徒の学級における存在感と不安感をグループアプローチで改善する－</u> 7. 授業場面における学力向上と生徒指導の方法－学級集団の生産性と凝集性を高めるルールを設定し実行する－ 8. 学級で懸念される諸課題への対応－課題を先取りして学級全体で検討する－ 9. 生徒に講話する方法－語りと資料を組み合わせる－ 10. 生徒との信頼関係を形成する方法－面談シート，コーチング，ストロークを用いてやりとりをする－ 11. 目標設定の方法－自他と有形無形の観点を組み合わせる－ 12. <u>生徒理解の実際例－Q-U アンケート理論を利用して生徒の学級満足度を高める－</u> 13. 生徒へ配付する資料作成の方法－学級通信・ワークシート・講話資料・映像資料を作成する－ 14. 1, 2, 3 学期の実践例－教育実践内容を列挙し生徒配布資料を準備する－ 15. 学級における教育活動の年間計画作成－一年間の教育実践資料を準備する－

【授業内容】

4. いじめの基準を明確にする方法—日課的場面ごとにいじめ言動を明確にし、事例を取り上げて基準を共有する—

学校に登校してから帰りの会までの時間割で括られる日課的場面を7つに整理して、その各場面においていじめを観察するポイントを、受講学生にまとめさせながら、学校現場の教員研修で集約した実際例を示して、それを参考にレポートを作成させる。

5. いじめ・不適応を把握する方法—いじめ・不適応を把握するアンケートの理論と実践方法を理解する—

授業者が作成したいじめ・不適応把握尺度を示しながら、その学校現場での利用方法について取り上げる。

6. いじめ・不適応に対応する方法—生徒の学級における存在感と不安感をグループアプローチで改善する—

授業者が作成したいじめ・不適応把握尺度によって得られた結果を基に、学級全体にアプローチする方法について取り上げる。

12. 生徒理解の実際例—Q-Uアンケート理論を利用して生徒の学級満足度を高める—

学校現場で広く利用されているQ-Uアンケート（学級満足度尺度）を紹介し、その実施方法とアセスメント方法について取り上げる。